

送 辞

厳しい冬の寒さも和らぎ、春の訪れが感じられる季節となりました。このような佳き日に、卒業生の皆様が晴れてご卒業を迎えられましたことを、在校生一同、心よりお祝い申し上げます。この仁賀保高等学校で多くの事を成し遂げてきた先輩方の晴れやかな眼差しに、私達は嬉しさと誇らしさ、そして寂しさを感じずにはられません。

真新しい制服に身を包み、これから始まる高校生活に期待で胸を膨らませると同時に、不安を抱きながら、仁賀保高等学校の門をくぐり3年の歳月が経とうとしています。皆さんはこの3年間でどのように振り返っていらっしゃるのでしょうか。

多くの初めてに胸を躍らせながらも、全校鳥海登山等の行事を通し、仁賀保高校生であることを実感した1年目。そこには当たり前の日常がありました。新型コロナウイルスの流行により様々な活動が制限された2年目。そこには修学旅行や部活動の大会など、貴重な体験や披露の場が奪われる受け入れがたい苦悩がありました。2年目の悔しさをバネにコロナ禍の中で今の自分達だから出来ることに目を向け、新たな事に挑戦し続けた3年目。そんな先輩方の取り組みを少し振り返りたいと思います。仁高祭では、一般公開は中止になったものの工夫をし、学校を精一杯盛り上げてくださいました。先輩方のクラス展示を紹介します。鳥居をくぐり抜けると千と千尋の神隠しをイメージした世界が広がる教室まで別世界のような3年A組。月をモチーフにインスタ映えスポットを作成し、尚且つハロウィーンの遊び心も忘れない3年B組。事前のエントリーでQRコードで募るなど、情報メディア科の特性を生かし、カジノで盛り上げた3年C組。校訓である「友愛」に沿って各クラスが団結し、クラスデコを完成させようとする先輩方の姿は、友愛そのものであると感じました。練習を重ね、創意工夫をこらし、取り組んだ体育祭。全校で汗を流し、仁高生が一丸となった野球応援。総合的な探究の時間では、にかほ市の課題を挙げ、課題解決に向けての取り組みや発表は後輩の私達が受け継ぐべきものだと思えるものでした。

コロナ禍の今、こうして行事を行い、楽しむことが出来たのは、先輩方が私達の先頭に立ち、引っ張ってくださったからだと思います。そんな先輩方の姿を見て、自分達も先輩方のように困難に立ち向かうことの出来る人になりたいと感じました。

厳しい暑さの中、毎日のように遅くまで教室に残り進路実現に向け、書類作成や面接練習に励む姿がありました。その懸命に取り組む姿を拝見し、進路実現の難しさや夢を叶えようとする強い意思を感じました。これから先輩方は、自分の夢に向かって、一人一人違った道へと進んでいかれます。自分の選択した道でも大変な事はあるかと思います。そんな時は、仁賀保高等学校で過ごした3年間の思い出してください。そして、仲間と過ごしたかけがえのない日々や、仁賀保高等学校で学んだことを生かし、先輩方らしく乗り越えていってください。きっとどんなことが起きようと、逆境をチャンスへと変えることができた先輩方なら乗り越えることが出来ます。私達在校生も、先輩方のように頼もしい人に成長出来るよう、頑張ってください。

最後になりますが、先輩方とかけがえのない学校生活を共に出来たことを、幸せに思います。卒業生の皆様のますますのご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

令和4年3月1日

在校生代表 小川 楓憂菜